

「もやいす」と 育成と産官学民の
対話と協働で拓く地域の未来



お問い合わせ先

地域連携・研究推進センター COC推進室

〒862-8502 熊本県熊本市東区月出3丁目1番100号

熊本県立大学 グローカルセンター内

Tel: 096-234-6536 / Fax: 096-387-2987

<http://puk-coc.info/>



熊本県立大学



文部科学省

地(知)の拠点

地（知）の拠点整備事業とは

大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資する様々な人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在（Center of Community）としての大学の機能強化を図ることを目的とする文部科学省の事業です。（平成25年度から開始） 本学が採択された平成26年度は、全国237件の申請の中から25件が採択され、うち公立大学で採択されたのは、申請数38件のうち本学を含め2校のみでした。

「もやいすと」とは

本学では、人材養成の目的を表す概念として「もやいすと」を用いています。「もやいすと」の「もやい（舳い）」とは、もともと船を相互に繋ぐことを意味し、人と自然と地域社会とを再構築する「もやい直し」という言葉に由来しています。「もやいすと」とは「熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、“地域づくりのキーパーソン”として地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材」と定義しています。

本事業のねらい

- ① 地域関連科目の必修化や拡充等、全学的なカリキュラム改革に取り組むとともに、学生の自主活動をも包含する「もやいすと育成システム」を構築し、地域志向の教育を展開します。
 - ② 地域志向のカリキュラムやカリキュラム外の地域活動等を評価する新たな学修評価手法を導入し、教育効果の検証と教育の質保証を図ります。
 - ③ 地域課題の解決をテーマに、多様なステークホルダーが集う対話の場「もやいすとフューチャーセンター」を学内外で開催し、課題解決に向けた学際的なアプローチを図るとともに、その成果を教育に還元します。
- これらを通じて、地域と協働で課題解決にあたりながら、地域活性化のキーパーソンとなる学生＝「もやいすと」を地域へ輩出する「地(知)の拠点」を目指します。

事業概要図



※船を相互につなぎとめることを意味する「もやい」から、「熊本の自然や文化、社会に対する理解に立ち、専門の枠を超えて、自ら課題を認識・発見し、“地域づくりのキーパーソン”として地域の人々と協働して課題の解決に取り組む人材」

主な取り組み

事業年度：平成26年度～30年度（5年間）

教 育

全学的なカリキュラム改革

● 全学共通科目として新たな科目区分（地域理解とリーダーシップ）を設定し、全学生が履修する地域を知るエントランス科目の新設、課題解決に必要な汎用スキル養成科目の新設、従来から実施してきた新熊本の改編

地域を知るエントランス科目	新熊本の改編
もやいすと（地域）ジュニア育成	新熊本市：ことば、表現、歴史
もやいすと（防災）ジュニア育成	新熊本市：熊本の生活と環境
汎用スキル養成科目	新熊本市：地域のビジネスリーダーに学ぶ
もやいすとシニア育成	新熊本市：地域社会と協働

※上記は全て地域志向科目として設定

● 各学部専門教育における地域志向科目の拡充、地域的要素の導入

カリキュラム体系外の地域活動を評価する指標の導入

● 地域における様々な自主活動等を人材育成の一環と位置付け、キャリアフォリオ等を活用し、ポイント制で評価する手法を導入

新たな学修評価手法の開発

● 教学IRに基づき、カリキュラム外の地域活動や、サービスラーニングを含む教育全般の成果を測る新たな学修評価手法を開発し、持続的な教育改革を推進

研 究

地域志向教育研究支援事業

● 教員が主体的に地域課題をテーマとして行う教育・研究・社会貢献活動費を助成

くまもと県南フードバレー構想の推進

● 関係自治体、企業等との情報交換会等を開催

● 同構想の推進に関する各種調査・研究費を助成

学生自主研究の奨励

● 学生が地域課題をテーマに自主的に取り組む研究活動を支援

地域貢献研究事業の推進

● 本学研究者と県及び包括協定自治体による共同研究の推進

社会貢献

「もやいすと」フューチャーセンターの開催

● 地域や企業等、多様なステークホルダーとの対話の場「もやいすとフューチャーセンター」に教職員、学生も参加することで、課題解決に向けたイノベーションや学際的な研究プロジェクトの創出を図る。

COC連絡協議会の開催

● 連携する自治体との密接な対話の場を設け、地域課題の抽出や新たな連携事業の企画検討を行う。

CPDプログラムの拡充

● 広く社会人を対象に、最新の知見を学び足し、学び直しする機会を提供するCPDプログラムの充実を図る。

連携自治体

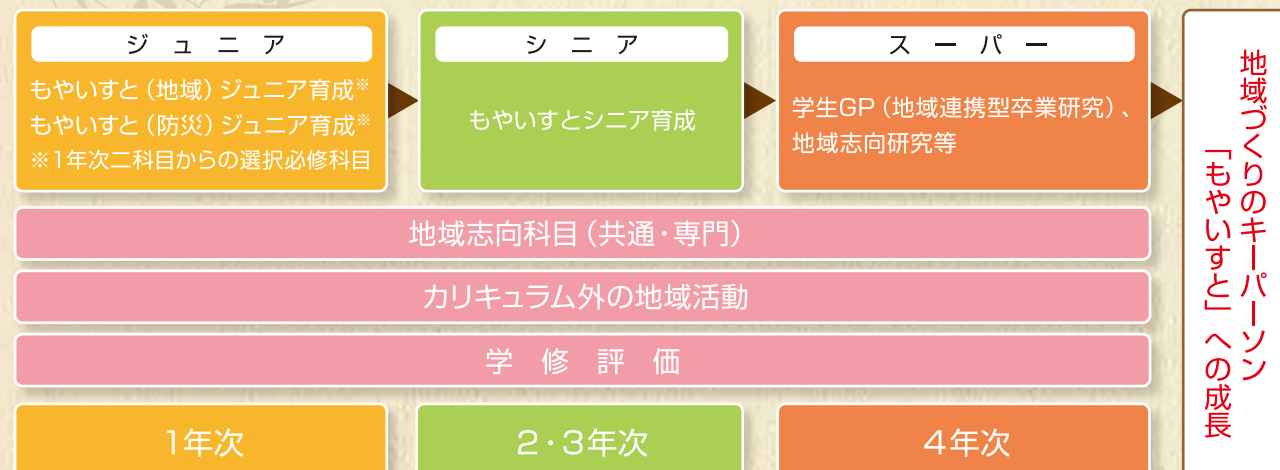


熊本県立大学では熊本県と5市村（八代市、天草市、和水町、相良村、五木村）、公益財団法人阿蘇グリーンストックと連携して事業をすすめます。

教育改革分野の主な取り組み

もやいすと育成システム

- 地域再生・活性化を担う高い課題解決能力、実践力を有する人材を育成するため、全学的な「もやいすと育成システム」の構築に取り組めます。



ジュニア

もやいすと(地域)ジュニア育成(1年次二科目からの選択必修)

1年生の半数約250名を対象に、各地域をフィールドとして、地域への気づきを促す導入科目。チームによるグループワークを中心に、対象地域に対する事前学習、地域課題発見と解決へ向けたワークショップ、対象地域へのフィールドワーク、成果発表会によって構成。初年度(平成27年度)は、阿蘇、玉名、菊池の3地域を対象地域として開講、玉名、菊池地域では高校生(熊本県立北稜高校、熊本県立菊池高校)との連携授業を展開した。



シニア

もやいすとシニア育成

もやいすとジュニア育成を受講した2年生を対象に、地域課題解決へ向けたファシリテーションスキル、調査技法を学ぶ展開科目。調査技法を学ぶ講義、対象地域へのフィールドワーク、ジュニアに対するファシリテーション演習、成果発表会によって構成。初年度(平成27年度)は、もやいすと(地域)ジュニア育成に対してファシリテーターとして参加、1年生へのファシリテートの実践を通してスキル向上を図った。



もやいすと(防災)ジュニア育成(1年次二科目からの選択必修)

1年生の半数約250名を対象に、地域課題の一つである「防災」にフォーカスした導入科目。チームによるグループワークを中心に、防災に関するオムニバス形式の講義、体験学習、成果発表会によって構成。初年度(平成27年度)は、日本赤十字社熊本県支部、熊本YMCA、NPO法人日本防災士会熊本県支部の協力のもと、HUG(避難所運営ゲーム)等による体験学習を実施した。



スーパー

学生 GP(地域連携型卒業研究)、地域志向教育研究事業等への参画を通して、地域課題に基づいた学修活動を展開する。

地域志向科目(共通・専門)

もやいすと関連授業、新熊本学、減災リテラシー入門をはじめとした地域志向科目を共通教育、学部専門教育へ展開する。

カリキュラム外の地域活動



カリキュラム外で学生が取り組むさまざまな活動(地域ボランティアや自主研究等)への参画を奨励し、学修活動として評価する仕組みづくりを行う。

学修評価

もやいすと育成システムにおける教育活動に対する学修評価手法の開発、整備を行う。

研究推進分野の主な取り組み

本学の設置団体である熊本県や包括協定を結ぶ市町村の課題解決へ向けた「地域貢献研究事業」制度に加え、COC連携自治体が抱える個別の地域課題や、広域的な地域共通課題、教育改革等をテーマとした教育・研究・社会貢献活動を支援する「地域志向教育研究制度」を新設し、本学教員による教育研究活動を推進します。

●地域志向教育研究事業

教員が地域課題をテーマとして取り組む教育・研究・社会貢献活動を助成

学生による「やつしろトマトフェスタ」参画を通じた地域活性化の実践型教育研究事業

(総合管理学部 丸山教授 ほか)

「やつしろTOMATOフェスタ」において、学生自らが立案した企画を実施。フェスタ実行委員会では、イベントに対するアンケート結果及び考察の報告、イベント運営に対する意見を積極的に提案した。



八代松井家菩提寺春光寺蔵書の研究 (文学部 鈴木教授)

八代市立博物館未来の森ミュージアムが所蔵する、江戸時代前期に記された八代松井家菩提寺の春光寺蔵書の書誌調査に学生約10名が参加し、貴重な地域古典籍の書名や刊年等データの体系的整理に取り組んでいる。

天草市における近代建築物の保存と今後の活用を考える (環境共生学部 辻原教授)

現地でのフィールドワークや成果報告会を経て、天草市に残る近代建築物の価値や情報について地域との共有を図り、観光資源としての活用策等について検討を行った。



●くまもと県南フードバレー構想の推進

熊本県の重点政策の一つである「くまもと県南フードバレー構想」の実現へ向けて、本学の強みである食健康科学やビジネスに関するシーズを活かした研究活動、地産地消、食育の推進活動等にも取り組んでいる。

・くまもと県南フードバレーフォーラム(八代市)への参画

平成26年度は、熊本県農産物の機能性やICTを活用した農産物販売支援システムについての研究発表のほか、八代市との連携事業や食育活動の報告、ポスターセッション等を実施

平成27年度は、地域志向教育研究事業や学生GPの成果等のポスターセッションを行い、学生GPの取り組みの一つである八代の食材を使ったピザの試食が行われ好評を博した。



●天草市における熊本県立大学研究成果報告会について

連携自治体である天草市をテーマとした研究成果について、文学部及び環境共生学部の5人の教員が歴史・文化・建築・デザイン・住教育という視点から研究成果報告を行った。参加者数は地元市民を中心に約140名、うち約半数は天草市内の高校生が占めた。



蔵書が語る人のあゆみと地域のあゆみ 一天草町上田資料館収蔵古典籍より一	文学部	米谷教授
天草のキリシタン文化とコレジオ	文学部	平岡准教授
天草市における近代建築物の保存と今後の活用を考える	環境共生学部	辻原教授
天草小学校における「住教育」の提案と実践	環境共生学部	佐藤准教授
「家プロジェクト」及び「アートトリエンナーレ」導入による地域活性化に関する研究	環境共生学部	高橋准教授

社会貢献分野の主な取り組み

「もやいすと」フューチャーセンター（セッション）の開催

地域の多様なニーズを受け止めるため、様々なステークホルダーが集う「『もやいすと』フューチャーセンター（セッション）」※を学内外で開催。ここで得られたアイデアや研究テーマを学内や地域へ還元し、協働で課題解決に取り組むサイクルを生み出していきます。

※フューチャーセンター（セッション）とは
創造的な対話を通して、未来に向けての「新たな関係性」と「新たなアイデア」を生み出し、参加者が「協力して行動できる」状況を生み出すための場

熊本の未来を考えるフューチャーセッション 「プロムナードカフェ」

県庁プロムナードにおいて「プロムナードカフェ」と題した大規模フューチャーセッションを開催。「30年後に残したい熊本の未来を考える」をテーマに、学生、自治体職員、企業人等約100名による対話が行われた。



フューチャーセッション 「大津町の宝もの探し、宝ものづくり」

住民主体の地方創生事業を考えたいとの大津町の要望を受け開催。地域の宝探しと宝を活かして取組みたい事業について約100名による（本学学生25名が参加）対話を行った。



フューチャーセッションの波及

本事業における取り組みにより、学内外におけるフューチャーセッションの認知度やニーズが高まり、学内はもちろん県内各地域へも広がりを見せつつある。

なごみの里 里山再生プロジェクト

里山の再生による地域の交流拠点づくりを目指して、平成18年度にスタート。活動は、和水町平川地区の町有地「ふれあいの森」で行われ、毎月学生がボランティアとして参加し、農作物の作付けから収穫といった一連の農業体験や、活動拠点である「ふれあいの森」の整備、炭焼き、餅つき等の体験活動等を通じて地域住民との交流を図っている。



熊本県・熊本大学との連携事業

熊本県と熊本大学及び本学の3者による連絡会議を設置し、COC事業における連携事業を展開。平成26年度の合同キックオフシンポジウムを皮切りに、平成27年度は、天草市を中心に事業を展開、天草市河浦町において、熊本大学との合同研究発表会を実施した。



COC連絡協議会の開催

連携する自治体との意見交換の場を設け、地域課題の抽出や、地域志向教育研究事業をはじめとする様々な連携事業の推進に向け、連携自治体との対話を通した連携体制を構築した。

もやいすと（地域）ジュニア育成の感想

1年生 宿利 貴宏 さん

授業のはじめは初対面の人ばかりで不安しかありませんでしたが、同じ班になったメンバーひとりひとりが非常に強い役割意識をもってひとつひとつの事に当たってくれたため、出される課題に対して、大きな問題もなく毎回スムーズに取り組むことができました。

また、メンバー全員がそれぞれ強力な個性を持っていて、さらに互いにあまり遠慮することなくそれらを発揮し合えたことにより、早い段階からグループワークを通して打ち解けることができました。

「もやいすと（地域）ジュニア育成」の授業終了から時間が経過した現在でも、同班の中で交流があります。「人と人、人と地域、地域と地域」を結ぶ「もやいすと」として、最も身近な所で仲間の結束を「もやう」ことができ、今後社会に出てからのみならず、学生生活を充実させていく上で非常に有意義な時間となりました。

1年生 出口 貴啓 さん

私は今回の「もやいすと」で、グループ活動の面白さと地域活動の重要性を学びました。授業の中で、グループのメンバーそれぞれが役割を分担し、ジグソー学習を行うことにより、ひとりで学習を行う以上の成果物を得る、という体験を初めて体験しました。また、ワークショップや雑談をする中で、自分ひとりでは思いつかないような意見が出てきたり、意見を発展させたりと、グループ学習だからこそできたことが多かったと感じています。

座学だけでなく、実際に阿蘇地域に行き輪地切りを行って、阿蘇山の急斜面で刈払いを行う大変さを実感することができました。どんなに話を聞いても、たとえ動画を見たとしても、やはり実際に体験しないとわからないものがあると感じました。その上で、阿蘇について「よそ者」、「わかも入りました。その上で、阿蘇についてある私たちが実際に地域への、そして時に「バカもの」である私たちが実際に地域への入り活動することは、地域の活性化にとってとても重要なものだと感じました。

今回のように地域に関わる機会がさらに増えれば、とても面白いと感じました。また、「もやいすと」で知り合えたメンバーと一緒に、地域での自主研究活動を進めています。「もやいすと」によって地域に目を向ける人が増えたように感じました。

もやいすと（防災）ジュニア育成の感想

1年生 安増さやか さん

この授業は他学部との学部横断によるグループワークを通して行われ、私はリーダーを務めることになりました。各講義の最後に班毎の振り返り（リフレクション）の時間が設けられていたため、様々な学部学生の考え方に触れることができました。また、自分ひとりでは着目していなかった点に気づくこともできました。グループ学習でしたので、集まる時間の調整や全員の意見の尊重など難しいこともありましたが、メンバーそれぞれが得意なことを役割として受け持ち、協力して準備することができました。

この授業を通して、災害に対してあらかじめ準備しておくことが大切なのだと考えさせられました。災害への事前準備をという、災害グッズを備えておくことや避難所への経路を調べることをイメージしがちでした。しかし、地域住民との「つながり」を大切にすることも災害への備えなのだと学ぶことができました。日頃から地域住民と付き合いを持つておくことで災害時の助け合いの力が強くなり、被害の拡大を防ぐことができるからです。講義を受けなければこのようなことを知ることもなかったのだろうと考えると、この講義を受講して本当に良かったと思います。

1年生 杉本 薦彦 さん

この授業は全学部共通科目となっており、いくつかの班に分かれグループワークを中心に進められました。普段あまり接することのない他学部の学生と共に活動していく中で、自分の思いもつかないような考え方やアイデアに触れることができ、自分の視野や見ている世界が広がっていききました。さらに、リーダーとして初対面の人ばかりのグループで活動していくことで、グループをまとめ行動していくことの難しさを実感しました。

「もやいすと（防災）ジュニア育成」を受講することによって、今まで私には関係ないと思っていた災害について学ぶと同時に、自分なりに災害について考える良いきっかけとなりました。特に災害に備えるという防災意識が自分を含めて多くの人に欠如していることが問題であると学び、次年度に「もやいすとシニア育成」に参加することで、この学びを多くの後輩たちに伝えていきたいと思っています。

1年生 福島 直仁 さん

「もやいすと（防災）ジュニア育成」では、さまざまな経験を得ることができました。この授業では、学ぶだけでなく、自分自身が成長するのを感じることができました。授業の特徴として、ワークショップやプレゼン発表があります。私にとって1番素晴らしい経験は、グループ活動です。授業の最後には、防災に関する情報を調査し、グループ内の考察を踏まえてプレゼンという形で発表しました。

正直なところリーダーに選ばれた私は、グループをまとめる能力や人前で発表する経験が乏しかったです。そのような中、私を上手くサポートしてくれたのはグループのメンバーでした。一人一人の意見やアイデアを共有して、上手くまとめることができました。

発表会では、5分間で自分達の調査結果を発表しなければなりません。これは、発表経験が乏しい私達にとってとても難しいことでしたが、グループが上手く機能した私達は最優秀賞を受賞することができました。

受賞した喜びだけでなく、確実に自分自身が成長しているのを感じることができました。成長するきっかけとなったこの授業に感謝しています。